

## 日本列島と韓半島との結びつき

木村 敏雄\*

日本列島は地質学的にみてその生成の始めから韓半島とは密接な関係をもっていた。日本のような孤状列島にはそれを支える骨組として花崗岩体が帯状に、または列をなして分布することが多い。日本列島にはそのような花崗岩体としていくつもの時代を異にするものがあるが、そのうち約2億5000万年前より後の時代のものについて配列の仕方が良くわかっている。

今から2億5000万年前から1億7000万年前の時代のものは、富山県、岐阜県北部石川県などに分布するが、その延長が韓半島南部の沃川帯にあらわれる。韓半島最南部に分布する白亜紀層の下にもその基盤岩としてこの時代の花崗岩があるものとみられる。

今から1億2000万年前から5000万年前までの花崗岩は東北地方から西南日本の中央構造線の北側にかけて広く分布する。この花崗岩貫入の後期には、山口県長門峡地区などに流紋岩類が噴出しているが、それと同じ時代のものが韓半島の仏国寺あたりに噴出している。

このようにして、日本列島の骨組ができていくとき、本州孤の西半部と韓半島南部とはしっかりと結びつき合っていたのである。

これよりずっと遅れて1500万年ないし1200万年前くらいにできた花崗岩は、紀伊半島、四国南部、九州南部に分布するが、九州西部では甌島から向きを北に変えて、五島、壱岐、対馬に分布する。九州西部から壱岐、対馬に達するものは南北に走り、九州—琉球孤の北端部を作る。

韓半島南部から、対馬、壱岐、北九州にかけての地区は、以上述べたようにして、地質構造のできからいっても、韓半島、本州孤、琉球孤を結び合わせる接点となっている。そこはまたずっと遅れて、人類の歴史が始まってからも文化交流の接点となっている。そこに日韓トンネルを掘ろうとする計画に、地質構造形成史を研究する私には、韓半島と日本列島との結びつきについて深い因縁を感じさせるものがあるが、また学問的にも大きく寄与するところがあるかと期待するものである。

\*東京大学名誉教授